

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

担当エリアは昔からの地縁のつながりがあるエリアと新興住宅地として一斉開発されたエリアに分かれています。高齢化率はほぼ同じくらいですが、介護認定率に違いがあり、それぞれの健康意識も異なることから、それぞれの地域にあった介護予防講座を展開していく必要を感じています。地縁のあり方が異なる状況でも地域活動の担い手不足にはどちらも課題になっており、ちょっとした生活の困りごとのお手伝いについては引き続き協議体などで検討していきます。

今年度の重点的な取組

新規	継続	— 具体的な取組内容 —
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・地域包括支援センター職員が地域の民生委員さんたちにとって、より身近な存在になるために民児協定例会に顔を出させていただきます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域のみなさまから、問い合わせを多く頂く事項やあったらいいと思われる情報を広報誌やチラシに掲載し、情報が届きにくい方にも届くように地域に出向きます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域によって相談内容に特徴があるので傾向などを分析して、エリア内の課題について検討していきます。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ケアマネ同士がの日ごろの業務について気軽に情報交換や相談できる場所として「ほっこりサロン」を開催します。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	毎月定例で実施する介護予防教室や新たに「ラフターヨガ」を実施することで、気軽に集まれる場の提供と定期的な見守りをしていきます。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

●自主事業は大幅な計画変更を迫られましたが、新しい生活様式を用いて何ができるか検討して取り組みました。室内の活動ではなく屋外の公園でラジオ体操を実施する事業を実施したり、エリア内の活動している地域活動グループがどんな風に活動しているかを広報誌で紹介したりしました。
 ●緑園地区・新橋地区のそれぞれの民生・児童委員の会合に地域包括支援センターの職員が顔を出すことで、ケアプラザからの情報、地域からの情報についてやりとりすることができました。
 ●地域ケア会議・協議体は計画どおりの開催はできませんでしたが、サロンをどのように再開したらいいかを検討したり（協議体）、ご近所の方の見守りについての情報交換をしたり（地域ケア会議）、継続的な地域活動をするためのきっかけ作りができました。
 ●総合相談を自治会・町内会別に集計してみると、相談が多いところ少ないところそれぞれの特性がわかりました。今後はその資料をもとにどのような事業をケアプラザが実施すればいいのかを考えていきます。

区からのコメント

（地域活動交流）

部屋の利用を他のケアプラザより長い1枠2時間としたり、部屋の消毒を行うサブコーディネーターへ細かな指導を行うなど、コロナ禍においても、極力地域の活動が止まることのないよう、積極的な取組を行っていたことは評価できます。広報紙では、コロナ禍で活動している団体に詳細なヒアリングを行い作成しており、活動再開を目指す団体にとって、とても参考となるものになっています。

また、新しい生活様式にも合った「パークエクササイズ」を2回開催し、新規に来られる方の導入としても良い企画となりました。

（地域包括支援センター）

コロナ禍においても、キャラバン・メイトの確保や成年後見個別相談会の開催、「ほっこりサロン」における情報共有の場所の提供など、地域ニーズに沿った取り組みが行っていました。個別支援においては、日頃から情報共有を行い、早期から迅速な対応に繋がっています。

次年度、地域ケア会議や新たな形での介護者のつどいの開催など、地域特性を活かした事業展開を期待しています。

（生活支援体制整備事業）

総合相談の傾向を分析し可視化するなど地域課題の把握や地区特性に合わせ事業を展開を着実に進めています。コロナ禍で地域活動が休止になる中、ボランティアのモチベーションアップの試みやサロン再開に向けた支援等バランスよく展開しています。次年度も地域住民や関係機関、団体と連携し地域課題解決に向けた新たな取組を期待しています。